

# 新たな治水計画のあり方に関する研究

岡安 徹也<sup>1</sup>

<sup>1</sup> (財) 国土技術研究センター 河川政策グループ

E-mail: t.okayasu@jice.or.jp

今後の治水計画は、気候変化を一つの契機として捉え、これまでのナショナルミニマムとして設定した確率規模までの外力に対する治水施設整備の計画から、流域における浸水被害最小化を目的とし、土地利用規制や流域対策を計画の与件ではなく内数とするハード・ソフトが一体となったシームレスな治水対策の総合計画の考え方に変更していく必要がある。本研究は、起こりうるあらゆる規模の洪水を対象にしたリスク評価に基づき、被害の期待値が流域全体として最小となるような新たな治水計画の枠組みと検討手法について検討を行い、今後の治水計画策定のための検討の方向性を示すことを目的に、検討の第一段階として、ケーススタディー水系を対象に、新たな治水計画策定方法を試行した結果と今後の検討の方向性を発表するものである。

キーワード：治水計画、リスク評価、リスクマネジメント